

## ルカ 13・1-9

今日の聴いた福音のことばは、わたしたちを暗い気持ちにさせるように思えるかもしれませんが。けれども、わたしたちがそうってしまうのは、これらのことばをわたしたちの救い主、主イエス。キリストの御ことばとして受け止めきれないからであるかもしれません。

今日の福音の前半では、「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」というわたしたちには不気味に思えるおことばが響いています。イエスがこのようなおことばを語られたのは、当時の人々に大きな衝撃を与えた二つの出来事を契機にしてのことだと語られています。その一つは、ユダヤ人の祭りの時に、ローマ総督ピラトが、ガリラヤで起こった暴動の首謀者たちを処刑したというニュースです。もう一つの出来事は、建設途中であったのでしょうか、あるいは老朽化していたためでしょうか、エルサレムのシロアムの塔が倒壊して、多数の犠牲者が出たというニュースです。このような出来事は、わたしたちの身の回りにも、毎日のように今日のニュースとして伝えられている出来事と変わるものではありません。そのようなニュースに接するたびに、わたしたちもそれらの出来事の犠牲になった人々を気の毒に思い、このようなことが起こる社会に対して暗い気持ちになります。今の時代のわたしたちは、あの時代の人々とは比べものにならないほど、毎日のようにこのような出来事を伝えるニュースに接しているので、その一つ一つを心に留められなくなってしまっているかも知れません。

そのようなわたしたちに、今日の福音を通してあの時と同じように、「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」とイエスは語りかけておられます。今日の福音に語られているこのようなニュースに接するたびに、わたしたちはその事件や出来事に巻き込まれて犠牲になった人たちのことに心を痛み、そのようなことがいつ何時自分の身に降りかかるかも知れないという漠然とした不安を感じますが、多くの場合それ以上に深く心に留めないままに過ごしていることのほうが多いのではないのでしょうか。心の中に感じる漠然とした不安に一々気を止めていては生きてはいけない現実の中に、わたしたちは身を置いているからです。けれども、そのようなわたしたちにもいつかは確実に、思いもかけない仕方でこの世のわたしたちのいのちが突然に断ち切られる時が襲いかかるのです。

「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」というイエスのおことばは、この厳然たる事実に向けるようにとわたしたちに促しているのです。このようなおことばは、わたしたちの心をいたずらに不安の陥れるよう

に思えるかもしれません。けれども、イエスがもたらしてくださる福音は、わたしたちの心の目をこのような現実の先へと向けさせようとしているのです。いつかは断ち切られるこの世のいのちを生きるわたしたちに、この現実の理不尽さに打ち負かされることのない、神のいのちにつながるいのちのありようを示すために、イエスは神のもとからわたしたちが生きるこの世界に来てくださったのです。わたしたちはそのイエスを信じて、イエスが約束しておられる永遠のいのちに向かう生き方を、洗礼によって受け入れたはずです。わたしたちの教会のミサも、カトリック信者としてわたしたちが祈る祈りも、すべて、そのことに向けて祈る祈りであり、そのことに向けてささげられるミサです。

「悔い改めなければ、滅びる」という今日、イエスがわたしたちに呼びかけておられる悔い改めとは、この暗い世相の中に生きるわたしたちが、イエスの十字架の死を越えた復活の永遠のいのちが指し示す、信仰によって与えられた、この世のいのちを越えた、それこそがわたしたちにとっての真実のいのちに目覚めて生きることをわたしたちに呼びかけておられるのです。

今日の福音の後半でイエスが語っておられるイチジクの木のとえ話も、わたしたちの気持ちをいたずらに暗くさせるかもしれません。自分のありようを反省すると、わたしたちは、自分が実を結んでいないイチジクの木のようにあると思わざるをえないところがありおます。しかし、まさにそう思い込んでしまうことによって、つまり、わたしたちは自分で満足のいく実を結ぼうとして、このたとえ話を語ってくださったイエスの思いから反れてしまっているかもしれません。イチジクの木に求められている実は、イチジクの木をイチジクとして植えてくださった神さまが求めておられるイチジクの実です。イチジクの木は神さまのブドウ畑の中に植えられているのです。神さまの恵みの園の中にイチジクの木として植えられたわたしたちは、切り倒されてしまうことだけを畏れなければなりません。

今年も迎えている四旬節、そして、わたしたちの信仰の中心である過ぎ越しの聖なる三日間と復活祭において、わたしたちのために十字架に架けられてそのいのちをわたしたちのために与え尽くしてくださったイエスのいのちに潤される恵みを願って、このミサをともにおささげしたいと思います。今日のミサの中で聞いたイチジクの木のとえ話でイエスはそのことをわたしたちに語りかけていてくださるのだと受け止めて、この四旬節の時をわたしたちの信仰の再生のための時、回心の時として生きてゆきたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高